

愛媛大学 平成28年度土木海洋会だより

— 第 22 号 —



Mine Engineering
Civil Engineering
Ocean Engineering
Civil & Ocean Engineering
Civil & Environmental Engineering

目 次

ごあいさつ	(会 長 友近 榮治 土木 48 年卒)	1
学科だより	(副会長 環境建設工学科 学科長 矢田部 龍一)	2
新任教員の挨拶	(助 教 坪田 隆宏)	3
支部だより	(関東支部幹事長 武名 裕史 海洋 S57 年卒)	4
	(近畿支部事務局 清水 義博 土木 S52 年卒)	6
	(中国支部幹事長 國富 將嗣 土木 H8 年卒)	10
	(愛媛支部支部長 黒川 重男 土木 S55 年卒	
	副支部長 平松 浩彰 土木 S58 年卒	
	幹 事 長 藤田 康司 土木 H4 年卒	
	〃 (補佐) 中村 大樹 土海 H10 年卒	
	〃 (補佐) 木村 将伸 環建 H12 年卒	
	〃 (補佐) 栗原 弘和 土木 H2 年卒)	11
同窓会報告		
	鉱山学科 昭和 38 年卒クラス会 in 岡山	13
	S35 年入学北海道一周同期会	16
	豊国先生を囲む会	18
	平成 27 年度環境建設工学科卒業生同窓会 (中国・関西エリア)	20
平成 28 年度・総会報告		21
本部だより		25
編集後記		26

巻 頭 緒 言

会長 友近 榮治（土木 S48 年卒）



愛媛大学土木海洋会の会員の皆様におかれましては、時下ますますご清祥、ご活躍の段、お喜び申し上げます。また、平素より土木海洋会の活動・発展にご理解及びご尽力・ご協力を賜っておりますことを、厚く御礼申し上げます。

本会は、会員相互の親睦を図ると共に、土木海洋工学における技術の発展に寄与することを目的としております。

昨年度の「土木海洋だより」にて本会の財政面における状況を皆様にお知らせ致しましたが、H28年度の年会費納入合計はH27年度に比べまして14万円の減少、次年度繰越金も36万円の減少と厳しいものとなっています。

会費納入率の向上・経費削減につきましては、例年の懸念事項ともなっており、本部におきましても検討を重ね、今年度は各支部の活性化及び若年層会員の同窓会活動への参加を優先課題とする方針とし、各支部と協力して活動して参りました。

先ず、土木海洋会のホームページ(http://www.hydro.cce.ehime-u.ac.jp/doboku_kaiyou_hp)を更新し、会員の皆様に本部及び各支部における行事予定や開催状況のご報告をタイムリーに掲載してお知らせすることや、会員の皆様が投稿できるように致しました。また、各支部にもご協力を頂き、メーリングリストを作成し、連絡網の構築を図っています。

次に、会費の納入方法については、現行の「郵便振替用紙による振込」のみではなく、利用しやすく便利な方法を検討し、会員の皆様にお知らせすることとしております。なお、他の学会等で用いられている「コンビニ専用振込」も検討し、総会でご審議頂きましたが、振込手数料の他に導入初期費用や年間固定費が必要となるため今年度は見送ることとなり、次年度以降の財政状況により再検討することとなりました。さらに、役員等の責務の明確化や迅速な懸案事項の処理・決定が行えるように会則の変更草案を作成し、総会にてご承認を頂きました。

今年度の総会におきましては、財政健全化等につきまして活発なご議論・ご提案を頂きました。改めて厚く御礼申し上げます。なお、「土木海洋だより」は、経費削減のためホームページでの掲載とし、冊子での配布は廃止することとなりました。

現時点では、上述の経費削減を含む対策の実行や各支部での会費納入率向上の取り組み等により、財政面での改善化の傾向が見られるようになってきております。

今後とも引き続き会員の皆様方の更なるご助力、ご協力をお願い申し上げます。

学科だより

副会長 環境建設工学科 学科長

矢田部 龍一

愛媛大学は大改革の時期を迎えています。今年の 4 月には新たに社会共創学部が発足しました。地方創生の流れの中で、地域密着の人材育成を全面的にうたった学部です。この新学部の環境デザイン学科地域デザイン・防災コース立ち上げのために 3 人の教員が転出されました。松村暢彦教授、ネトラ・バンダリ准教授、羽鳥剛史准教授の 3 名です。環境デザイン学科の定員は 35 名で、環境建設工学科と連携しながら教育に取り組めます。

まず人事異動について報告いたします。社会共創学部には 3 名の教員が転出されたことは、すでに紹介しました。学科内での昇進ですが、4 月に安原英明先生(岩盤工学)と中畑和之先生(構造工学)が准教授から教授に、全邦釘先生(構造工学)が助教から准教授に昇進されました。また坪田隆宏先生(交通工学)が 4 月に助教として着任されました。彼らは日本を代表する研究能力を有する若手教員です。OB 各位のご支援を期待しています。

次に退職ですが、武岡英隆教授と大賀水田生教授が、今年の 3 月を持って定年退職されました。なお、武岡名誉教授は愛媛大学南予水産研究センター長として、大賀名誉教授は愛媛大学理事・副学長として、引き続き勤務されています。

続きまして、八木則男名誉教授が春の褒賞で、大久保禎二名誉教授が秋の褒賞で、ともに瑞宝中綬章受章の栄に浴されました。お二人の先生の叙勲の報に接して心よりお慶び申し上げます。

最後に残念なお知らせですが、伊福誠名誉教授と二神治元技術職員が、この春、相次いでご逝去されました。永年のご功績に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、一千兆円を超える借金を抱えて国の財政が極めて厳しい中、文部科学省からの愛媛大学への交付金も、平成 16 年の法人化後、毎年 1 パーセントのマイナスシーリングが実施されています。そのため、平成 16 年と比べれば、既に 1 割以上の減額となっており、教員個々に配分される研究費の大幅な減は言うまでもなく、教員定員の削減も実施され始めました。これからの学科の運営は本当に厳しくなることが予想されます。

このように、法人化以降、大学は極めて厳しい競争環境にさらされています。入学試験の倍率、就職状況、科学研究費などの競争的資金の獲得状況、共同研究などの産学連携の実施状況、そして言うまでもなく国際学術雑誌などへの論文掲載編数などの比較可能な数値により、厳格に教育・研究・社会連携・国際連携などの成果が査定される時代が来ています。OB 諸氏のご指導ご鞭撻の程宜しく申し上げます。

着任のご挨拶

環境建設工学科

坪田 隆宏



はじめまして、平成 28 年 4 月に環境建設工学科に着任いたしました坪田隆宏です。私は平成 20 年 4 月に東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻を修了後、パシフィックコンサルタンツ株式会社に勤務し、都市高速道路の交通量推計や渋滞対策業務などを担当しておりました。その後、同社で 2 年ほど勤務した頃に休職し、平成 22 年 7 月にオーストラリアのクイーンズランド工科大学 (QUT) に留学しました。博士課程とポスドク期間を合わせて 5 年半ほど QUT に在籍し、Bluetooth データや GPS 等の個人の移動データ

を活用した道路交通モニタリング手法について研究してまいりました。教員としての経験は愛媛大学が初めてで戸惑う場面も多いですが、日々楽しみながら教育・研究活動に取り組んでおります。

私は各種交通データの分析を通じた道路交通モニタリングや交通事故分析に関する研究を行っています。今回は交通モニタリングに関する話をさせていただきます。交通モニタリングとは、ドライバーへの情報提供や適切な交通規制・制御を行う目的で、道路の混雑度を計測（モニタリング）することですが、それには交通量や速度等の交通データの収集が不可欠です。これらは従来、路側や舗装下に設置されている超音波感知器やループコイル等の車両感知器によって収集され、高速道路の渋滞情報提供や渋滞箇所の特定、一般道路では信号制御など、様々な交通マネジメントに活用されてきました。しかし、このような従来型の感知器は設置・メンテナンスコストの高さなどの制約から、空間的に疎な配置になっており（例えば NEXCO 各社の高速道路で概ね 1～2km 間隔）、感知器の設置されていない部分の交通状況は正確には分かりませんでした。このことによって、例えば交通事故等の突発事象による交通渋滞の発見が遅れる、あるいは所要時間が精度良く推計できないなどの問題がありました。

しかし近年、GPS 搭載車両の走行記録や車載 Bluetooth 端末（カーナビ、スマートフォン等）から発信される通信電波の記録などが入手・分析可能になりつつあります。このような各車両の移動記録からは、暗号化処理によって個人の特定は不可能になっているものの、各車両の通過した場所と時刻の情報が含まれており、これらを分析することによって、交通ネットワーク内での車両の移動軌跡や所要時間などが明らかになります。これらは特定の機器を設置・所持している車両・ドライバーの運転記録であり、全ての交通を捉えたものではありません。しかし、車両感知器が未設置の道路区間からも容易にデータの収集が行えることから、従来の交通データを補完し得る存在として注目されています。例えば、私が学位取得とポスドクとして過ごしたオーストラリアのブリスベンでは、全ての信号交差点に Bluetooth 電波の受信機を設置して通過車両からデータ収集を行うことによって、交差点間の混雑状況（所要時間）などを計測し、交通管制に役立てています。

現在、私の所属する環境建設工学科の交通工学・都市環境計画研究室では、Bluetooth データと従来型の車両感知器データを組み合わせて、松山市域のドライバーの利用経路の特定と各経路交通量の推計に取り組んでいます。これにより、例えば情報提供による経路誘導を実施した際に、対策前

後での経路交通量の比較や渋滞解消効果など、施策のきめ細かな効果検証が可能となりつつあります。

今後も、道路交通マネジメントの高度化に向けた交通データの利活用手法の開発に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

~~~~~ 支部だより ~~~~~

## 関東支部だより

関東支部幹事長 武名 裕史（海洋 S57 年卒）

今年の関東（&東日本）は梅雨明けが遅く、7月は例年になく曇天や雨の日が続き、梅雨明け後の8月も西日本に比べて、真夏日・猛暑日が少なく、比較的涼しい夏でした。更に8月中旬から続けて台風7号、11号、9号、10号が接近・上陸し、昨年までと違った天候でした。11月初旬に木枯らし一号が吹き、肌寒くなって来たかと思っていたら、下旬には関東で54年振りの積雪、東京では観測史上初の積雪となり、温暖化の影響か異常気象を感じざる得ない年でした。

さて、支部だよりの刊行は、師走で慌ただしい時節だと思いますが、会員の皆様に於かれましてはお元気でお過ごしでしょうか。

関東支部では、「会員各位間の親睦を深め、新たな発見のために少しでもお役に立ちたい」との、関東支部発足時からの使命感の下、平成27年度も以下の活動を中心として関東地区在住会員間の親睦を図ってまいりました。

### 1) 平成27年7月25日（土）：関東支部総会

場 所：キャンパスイノベーションセンター（田町）

参加人数：支部会員20名



平成27年度関東支部総会は、7月25日（土）に愛媛大学サテライトオフィスのご協力のもと、キャンパスイノベーションセンター3階において、会員20名の参加で開催しました。H26年度事業報告、H26決算報告、H27年度事業計画、H27年度予算案について報告を行い、承認を頂きました。総会後は大気・水環境研究室の藤森祥文先生から『松山平野の水資源と気象について』と題して、ご講演を頂き、活発な質疑応答もありました。講演後は、会場近くで懇親会を開催、会員相互の交友を深めました。

2) 平成 27 年 11 月 28 日 (土) : 第 11 回秋のレクレーション

場 所 : 小金井公園 (東京都)

参加人数 : 12 名



当初の 10 月 17 日予定の秋レクが雨天中止のため、そのリベンジとして 11 月末に変更。師走も間近で肌寒さくなる季節柄でしたが、その日は晩秋に関わらず暖かい晴天の下、バーベキュー大会を開催できました。日程変更で、元々参加予定だった 7 名の方が来られなくなり、昨年より少し参加者が減りましたが、東京都小金井公園内の BBQ 広場にて、美味しいお肉や海鮮と野菜に、皆で手分けして運んだビールと焼酎、遠路山梨から岩崎副支部長持参・差し入れの甲州ワインで、皆さん、晩秋の一日をたっぷりと満喫しました。

また、大井さん (環境 15)・玉井さん (環建 14) 夫妻の赤ちゃんがレクレーション初お披露目をしました。

3) 平成 27 年 11 月 7 日 (土) : 第 30 回 クラブ OH!海土 懇親ゴルフ大会

場 所 : 大栄カントリー倶楽部 (千葉県)

参加人数 : 8 名



第 30 回クラブ OH!海土 懇親ゴルフ大会は、千葉県成田市と都心からのアクセスにも恵まれ、日本庭園風の池と緑の美しい大栄 CC にて、8 名の参加で開催されました。

監事役の廣田龍也さん (土木 52 卒) が、ベスグロも取り、ぶっちぎりで優勝されました。

4) 平成 28 年 1 月 23 日 (土) : 関東支部 平成 28 年 新年会

場 所 : キャンパスイノベーションセンター (田町)

参加人数 : 支部会員 32 名



平成 28 年新年会は、愛媛大学サテライトオフィスのご協力の元、田町のキャンパスイノベーションセンター3 階にて開催しました。

土岐支部長の年頭挨拶の後、来賓の鳥海工業会関東支部長、河野土木海洋会前会長のご挨拶を賜りました。その後、特別講演として平成 11 年土木海洋卒で、現在、川崎合同法律事務所で弁護士をされている星野文紀さんより『土海出身弁護士誕生物語と弁護士の仕事』と題して、よくわからない弁護士という仕事を土木の現場だったご経験や工学部出身の目線で、お話をして頂きました。新年会後は、田町界隈の「えびず 田町店」にて会員相互の懇親を深めました。

また、この新年会が、ある学年の同期の皆様の新年会にも活用されて、有意義な新年会になったと思っています。



5) 平成 28 年 3 月 26 日 (土) : 第 31 回 クラブ OH!海土 懇親ゴルフ大会

場 所 : 金乃台カントリークラブ (茨城県)

参加人数 : 8 名



第 31 回クラブ OH!海土 懇親ゴルフ大会は茨城県牛久市と、春に続いて都心からアクセスが便利で、古くからある伝統コースである金乃台 CC にて、8 名の参加で開催されました。

当日は、武智修さん (海洋 57 卒) がゴルフ好きの本領を発揮され、ベスグロをとり、優勝されました。

上記の他、支部長、副支部長、監事、幹事の皆さんは多忙な中で日程を調整し、平成 27 年度は年間 3 回 (9 月、12 月、5 月) の役員会を開催し、各イベントの詳細計画等を協議し関東支部活動の力の源泉となりました。

関東支部では、毎年、決算/予算案審議に加えて愛媛からご来京頂いた先生に講演頂く支部総会を始めとして、多彩な方面で活躍されている OB/OG の方にご講演をお願いしている新年会、春・秋 2 回開催の懇親ゴルフ大会、さらには、幅広い年齢層の方々と一緒に楽しめるように企画している秋のレクリエーションを活動の 4 つの柱としています。

関係者一同、今後も少しでも会を盛り上げていきたいと頑張っておりますので、お近くの方はぜひお気軽に参加して頂ければと考えております。

ちなみに、平成 27 年度は、関西や中国地方からの転勤で関東に来られた方や久しぶりに関東に戻られた方内、数名の方が会へ参加も頂き、親睦も図れましたので、就職・転勤などで関東地区に移られた方は、是非ご一報下さい。

## 近畿支部だより ～「業界研究会」の裏で「愛媛大学ホームカミングデイ in 大阪」を開催～

近畿支部事務局 清水 義博 (土木 S52 年卒)

近畿支部では、各支部のみなさん同様、支部活動の活性化を目指し様々な取り組みを行なってきました。その内、支部独自の取り組みとして、本部に全面支援を頂き、恒例行事である新年会の機会を利用し、その前半プログラムで、大学在校生の就職支援の一助を目指した「愛媛大学環境建設系学生のための業界研究会」を実施してきました。これまでに土木海洋会だよりを通じて過去 2 回報告させて頂きましたが、3 回目の今回は、16 社の企業様に参加頂き、お蔭様で、盛大に開催することができました。本部よりお越しいただいた大賀副学長、吉井先生、門田先生、木下先生、河合先生、白柳先生、見世さん、参加頂いた企業のみなさん、OB のみなさん ありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回は、2月27日の研究会の「裏プログラム」で、新しく企画した「愛媛大学ホームカミングディ in 大阪」について、その概要をご報告します。

(開催に至る経緯)

1. 業界研究会は、参加頂く学生さん、OBのみなさんにとっては、有意義だが、説明会に参加しないOBにとっては、今まで、和気あいあいと行っていた新年会が大人気で様変わりして、ゆっくりと旧交を温める雰囲気では無くなった。
2. 学生さんを引率して、大学からたくさん先生方がお越し頂いているが、その先生方とゆっくりお話しできる時間がない。
3. 毎年大学から、「ホームカミングディ」の案内が届くが、近畿在住者にとっては、松山までなかなか足を運ぶ機会がない。

以上の3つの悩みを解消するため、業界研究会の裏で出前版ホームカミングディの開催を新たに企画しました。

(日時 場所)

平成28年2月27日(土) 15:00~17:30 於：大阪キャッスルホテル

(内 容)

第1部 愛媛大学ホームカミングディ(11月14日(土)開催)を映像で紹介 15:00~16:00

⇒愛媛大学ホームカミングディ式典の模様をビデオとプロジェクターを使って上映

第2部 卒業生相互の情報交換 16:00~16:45

第3部 引率で来阪された先生方からの学科や研究内容の近況紹介等 16:45~

大賀 水田生 副学長(土木49卒)

吉井 稔雄 先生(H22着任 東京大卒)

門田 章宏 先生(土木4卒)

木下 尚樹 先生(土木63卒)

河合 慶有 先生(H25着任 東京工業大卒)

白柳 洋俊 先生(H27着任 東北大卒)

会場は、サロン風として堅苦しくない会場設定で、コーヒーとスナック(愛大ブランドの「愛大どら焼き」など)を用意しました。

コーヒーを飲みながら、映像を見ながら、お話を聞きながら、お集まりの方々(教員と卒業生 卒業生相互)で歓談して母校を懐かしんでいただきました。また、「愛大グッズ(校名入りグッズ)」が当たる、抽選会も行いました。

大賀副学長から英国のタイムズ・ハイアー・エジュケーションの調査結果では、愛大は世



(ホームカミングディ)

界の大学ランキングで 601～800 位内、日本国内では 17 位（同率）にランクされているということで誇りに思いました。

また、交流会後、大賀副学長、吉井先生との意見交換で、現在の環境建設工学科の教員スタッフのレベルは、工学部内で断トツで、土木の分野では、九州大学にも引けを取らない陣容だというお話しでした。すごくうれしい気持ちになりました。

（反省）

今回は初めての試みとして「愛媛大学ホームカミングディ in 大阪」を業界研究会の裏プログラムとして同時開催致しましたので、いろいろ予期せぬ出来事、不慣れな部分もあり、進行が遅れましたことを反省しております。

（今後に向けて）

お蔭様で、今回参加の卒業生は、66 名（18 名増）でした。その内、業界研究会参加企業の卒業生は 39 名（20 名増）でした。

（参考）

昭和の卒業生 31 名（47%）

平成の卒業生 35 名（53%）

環境建設以前の卒業生 44 名（67%）

環境建設の卒業生 22 名（33%）

上の分析結果でも判るように、平成の卒業生、環境建設の卒業生の比率が増えてきて嬉しいですが、その反面昭和 30 年代、40 年代卒業の先輩方の参加者が減ってきて寂しく思っています。何とか、30 年代、40 年代卒業の先輩方の参加を維持しながら、若い世代の方の参加を増やし、活性化を図れるような取り組みを進めたいと思います。



（大賀副学長 於：ホームカミングディ）



（業界研究会）



（交流会）



#### 【 今年度（H28）の近畿支部の取組み 】

##### 1. 若い世代の人達を支部役員に登用

若い世代の人にもっと参加してもらうため、業界研究会に参加してもらった若手の方を中心に数名の方に声掛けして、支部役員を引き受けてもらった。そのおかげで、若手の人達の参加割合が増えた。今後も、若い世代の役員を増やしていきたい。

##### 2. 卒業5年以内くらいの人達への積極的な呼びかけ

現役時代に業界研究会に参加してくれたみなさんで、近畿に就職された人達に近畿支部の行事に積極的に参加してもらえるような取組みを行う。

- ・本部から早く該当者の就職先情報をもらい。7月の総会への参加を呼びかける。（実施済…参加者0名）
- ・総会に参加できなかった人達には、10月頃 支部役員と若手の交流会を開催する。（10月22日（土）実施済…3名参加）

##### 3. 年会費未納者への納入の呼びかけ

本部の会計が逼迫状態で、その原因のひとつが、年会費の未納者が多いということ。未納の原因は、会費を払いたくないというのではなく、「手間である（郵便局に行くのが）」「連絡が本部から届いていない（未納期間が長いので本部から連絡が届かなくなった）」などもあるので、事情を説明して、会費納入の協力を求める。

- ・支部役員で、未納だったみなさんには、協力をお願いし全員納入済（9月～10月）
- ・業界研究会、ホームカミングディ参加者の会費納入状況を確認して未納者に納入を依頼（1月予定）

4. 業界研究会、ホームカミングディ in 大阪（平成 29 年 1 月 21 日（土）開催）を更に盛りあげる

今年で 4 回目の業界研究会、2 回目のホームカミングディ in 大阪をより充実した内容にし、参加してもらったみなさんが、「参加して良かった。次回も参加したい。」と思ってもらえるような内容にする。

以上を進めてまいりたいと思いますので、近畿支部会員の皆様、本部の関係者の皆様には、また、ご支援の程、お願い申し上げます。

## 中国支部だより

中国支部幹事長 國富 將嗣（土海 H8 年卒）

昨年の支部だよりでは、より活発な活動を試みるべく威勢の良いことを書きましたが、残念ながら思うように活動できませんでした。お恥ずかしい限りですが、昨年度の活動実績と本年度の活動状況についてご報告申し上げます。

### 【平成 27 年度活動実績報告】

平成 27 年度は、支部定時総会のみを開催するに留まりました。

定時総会において、前年度からの懸案事項であった支部会則の再整備が承認可決されました。

支部会則は、会の目的、役員、総会、事業活動、事業年度などを明確化し、弾力的な運用ができつつ、効果的な交流活動ができる内容となっています。なお、会員が積極的に会員相互の親睦を図って頂けるよう、補助金制度も導入しました。

7 月には、補助制度をご利用頂きましたが、実績としては 1 件のみとなっております。

これについては、会員の皆様への周知が不十分であることが原因であると推測されますので、支部だより等でご案内できればと思っております。

下表は、平成 27 年度の活動実績をまとめたものです。

| 会合   | 開催日 | 場所      | 参加者数 | 主要議題等                  |
|------|-----|---------|------|------------------------|
| 定時総会 | 6/6 | 海鮮処江戸っ子 | 11 名 | 決算報告、予算・事業計画案、支部会則について |
| 愛遊会  | 7/9 | 佐伯 CC   | 4 名  | 親睦ゴルフ会 補助金支給           |

昨年の支部だよりで報告したとおり、忘年会または新年会の開催を検討しておりましたが、幹事長、本業多忙につき、十分な精神的・時間的余裕がなく、立案すらできませんでした。面目次第もございません。

また、広島以外でも交流会等の開催を考えておりましたが、こちらも実現には至りませんでした。

## 【平成 28 年度活動状況報告】

平成 28 年度は、5 月 28 日に広島駅近くの会場で定時総会を開催しました。

定時総会では、決算および予算・事業計画案について審議し、承認可決されております。

予算案には、定時総会および新年会の開催、2 件の補助事業を予算に組み入れて立案しておりますが、予算そのものが極めて限られていることから、今年度も会員全員への葉書による総会開催案内は出せず、メールアドレスが分かる方のみにご案内するに留まっています。

来年度については、前回の案内から 3 年が経過していることもありますので、郵送による案内を実施したいと考えております。

また、11 月 11 日開催の工業会広島支部総会を、支部忘年会と兼ねることとし、支部会員に参加を呼びかけ、メールでご案内させて頂きました。支部で連絡した方からは 5 名がご参加頂きました。参加してみるとメールアドレスが分からずご案内できていなかった支部会員の方にもお会いすることができ、良い機会となりました。

今後の具体的な予定としては、新年会の開催を検討しております。

まだ確定ではありませんが、1 月 28 日（土）に広島市内で、2 月 4 日（土）に岡山市内で開催予定です。

広島県外での交流会の開催は、初の試みです。年内にはメールでご案内させて頂きますが、メールアドレスがご不明な方が多く、会員全員への連絡が難しい状況です。

できましたら、ここ数年中国支部からの案内が届いていない方は、是非とも幹事長までメールでご連絡頂けると幸いです。（E-mail : [kunitomi-sho@kunitomi-div.com](mailto:kunitomi-sho@kunitomi-div.com)）

今後とも中国支部の活動にご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 【平成 27 年度決算資料】

※この資料は編集で割愛しています。資料が必要な場合は土木海洋会（[dokai@cee.ehime-u.ac.jp](mailto:dokai@cee.ehime-u.ac.jp)）までご連絡ください。

## 愛媛支部だより

|        |       |             |
|--------|-------|-------------|
| 支 部 長  | 黒川 重男 | （土木 S55 年卒） |
| 副支部長   | 平松 浩彰 | （土木 S58 年卒） |
| 幹 事 長  | 藤田 康司 | （土木 H4 年卒）  |
| 〃 （補佐） | 中村 大樹 | （土海 H10 年卒） |
| 〃 （補佐） | 木村 将伸 | （環建 H12 年卒） |
| 〃 （補佐） | 栗原 弘和 | （土木 H2 年卒）  |

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

愛媛支部では、「会員の職場を超えた情報交換を行う場を提供し、技術力向上を図る一助になりたい。」との思いで活動しております。

紙面をお借りしまして、昨年度の活動報告と本年度の事業計画をご報告します。

## 【平成 27 年度活動報告】

平成 27 年度は、役員会をはじめとして、ゴルフコンペを 2 回と忘年会を開催し、多数の出席を頂きました。

1. 役員会開催（平成 27 年 8 月 1 日）出席者 15 名

会場：伊予鉄会館

議題：支部総会用資料の審議

2. 支部総会（平成 27 年 8 月 22 日）出席者 11 名

会場：愛媛大学 校友会館

議題：前年度の事業・決算報告、役員、当該年度の事業計画・予算 など

3. 本部総会（平成 27 年 8 月 22 日）

会場：愛媛大学 校友会館

議題：各支部の事業報告 など

4. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成 27 年 5 月 23 日）参加者 12 名



会場：サンセットヒルズカントリークラブ

優 勝 山田康晴さん

準優勝 三好正忠さん

5. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成 27 年 11 月 28 日）参加者 11 名



会場：サンセットヒルズカントリークラブ

優 勝 勝谷雄三さん

準優勝 山田康晴さん

6. 忘年会（平成 27 年 11 月 29 日）



出席者 37 名

会場：伊予鉄会館 2 階 中華料理「北京」

## 【平成 28 年度事業計画】

平成 28 年度の事業計画は、次のとおりです。

今年度は、会員相互の親睦をより一層深めるため、試行的に愛媛県・松山市合同の新人歓迎会を企画し、大学の先生にも案内することとしております。

今後も、このような会員間相互の交流を深める行事を検討してまいりたいと考えておりますので、ご賛同いただける機関（役所・民間事業者など）があれば、遠慮なくご連絡ください。

また、忘年会やゴルフコンペに出席したいのに案内が届いていない会員の方がおられましたら、幹事長までご連絡ください。

1. 支部役員会 (H28.7.30) 伊予鉄会館
2. 支部総会 (H28.8.20) 愛媛大学 校友会館
3. 本部総会 (H28.8.20) 愛媛大学 校友会館
4. 愛媛支部 第1回ゴルフコンペ (H28.5.21)
5. 愛媛支部 第2回ゴルフコンペ (H28.11.19)
6. 新人歓迎会 (愛媛県・松山市・大学) (H28.10.14)
7. 忘年会 (H28.11.19) 伊予鉄会館

### 【最後に】

支部の運営やご意見などがございましたら、遠慮なく幹事長までご一報いただきましたければ幸いです。(E-mail:fujita-kouji@pref.ehime.lg.jp)

いただきました意見等を参考に、支部の運営をよりよいものにしていききたいと思います。

今後とも愛媛支部の活動にご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いします。

### ~~~~~ 同窓会報告 ~~~~~

## 鉱山学科 昭和38年卒クラス会 in 岡山

宗片 康修 (鉱山 S38 年卒)  
渡邊 尚 (鉱山 S38 年卒)

H28 年 6 月 5 日 (日)、2 年ぶりのクラス会、今回は、岡山の本名君と私、渡邊の世話で、瀬戸大橋のたもと、児島観光港に集合してもらう。

クラス卒業者全員、病は夫々に抱えてはいるが、1 名たりともまだ欠けてなく、遠路にも関わらず、参加された、体力・気持ちは真に素晴らしい仲間だ。車で列車でと次々に到着した。

昨日 4 日の梅雨入り宣言と天気予報は雨、が外れてくれて、明るい曇り日で、返って快適。集合場所の理由は、瀬戸大橋を下から見上げてみようという観光船でクルージング、正に巨大な橋、橋脚は目のあたりなのでチョーすごい圧巻なり、人間はこんなものを作ったのだと感心しきり。が、時代の流れで架橋ブームも去って、船は想像以上に老朽、エンジン音でガイドの声も聞き取りにくい、電話のコールも当然聞こえない。

次は、塩田王の「野崎家住宅 (国指定重文) の見学」製塩も家庭生活も規律正しく、ゆとりある生活をされていたのを彷彿とさせ、今なお、製塩業を継続されているとのこと。

次は、国産ジーンズの発祥の地、「ジーンズストリートの散策」だが、メンバーは後期高齢者、余り興味はないようなので早めにホテルへ入る。

くつろぎ、風呂へ入り、しゃべり、オーシャンビューの宴会場、早々に乾杯。そこへ藤原君父子が到着、一段と会場が盛り上がる。料理も飲み物も次々と出て来て、若く美人のスタッフのサービスもあり、笑いは絶えない。そこへ1時間遅れで宗片君が到着、またも乾杯で、益々会場は盛り上がり、閉会時となり和室に集まり、宗片君持参した、愛大の「純米酒 媛乃酒」や岡山の銘酒「雄町の純米酒 白菊」を堪能しながら、遅くまで飲み、語った。(以上、渡邊記)

以下は、迷文だが、仲間におだてられ、暇人だしと言う事で、宗片が記しますが、個人的な独断と偏見ともなりますが、ご容赦願います。宗片は、広島県三次(みよし)市から集合場所まで、3時間の距離なので、早めに児島について昼食を済まして、皆さんを迎えようと、愛大醸造の「純米 媛乃酒」等の持参品は準備万端いざ出発とエンジンをかけるが全くウンスンなし、バッテリーだと考え、充電しようとするがチャックでうまく掴めず充電できない、車屋さんへ大急ぎでと依頼、でも、早くても40分後になるのではと、待つ間にバッテリーをはずし見ると、何と水が全く無い、持っていた水を半量だが入れ充電器を回すと生き返ったが、そこへ新品到着、やれやれと出発、500m走ったら、3年前まで牛を放牧していた草地に我が家の牛達が居た。「え～、ここへ来とる?!」昨日まで入っていた放牧場から、餌不足で今朝逃げ出して、昔の所へ来ていたのだ。仕方なしと急ぎ電気柵を張って、2日間閉じ込めることにし、再出発。

半分まで走って福山を走行中、電話が入り、電気柵を設置した部分が「他人の土地へ及んでいる、とってくれとのこと」同じ隣接の雑草地故と確かに越境はしていたが、草掃除してくれるので、返って喜んでくれる筈との想定なので、まさかそんなことにクレーム付けるとは全くの想定外、解決策を提案するが気持ちを変えないので、仕方なくドタキャンでクラス会欠席のメールを送り、90分を引き返し、牛小屋へ入れた。割と、すんなり入ってくれたので、午後4時、夜の宴会には少し遅れるが、何とか間に合いそうと、ドタキャンをキャンセルしての出席メールを送って、再度児島へ向けて出発。

走行中、返事なし。岡山県に入り、信号待ちに電話入れるが幹事は出ない。同輩複数の人に電話するが誰も出ない。天候は薄曇り、まさか、クルージング船が事故ったか?と不安になり、ラジオをつけて、1時間の不安感を持って走りをもめた。ホテルまであと25km辺りでメールの返信が届き、事故でなかったと胸を撫で下ろした瞬間だった。船のエンジン音で着信音が聞こえなかったり、入浴中で仲間も電話が取れなかったようだ。

結局、1時間遅れて無事到着し、出席を歓迎してくれて、皆さんと互いに笑顔で再会、50数年前の気分で盛り上がった。色々な話が出る。が、全員、後期高齢者、病気の話ばかり、残念だが未来の話にはならなかった。そこで思い出したのが、私が28歳の時、町内の役員に任命され役員会へ行くとみなさんは親に近い年齢の方たち、会合後の宴席で病気の話ばかりで、若い私には苦しい時間であったことを思い出すと同時に、今回も藤原君に、同行してくれているご子息、昔の私の体験と重なり、苦々しい思いをされた事だろうと同情した。

でも友の経験を聞くことで、病の早期発見に役立つに違いない。

二日目、昨今はどこでもそうだが、朝食はヴァイキング形式、ゆったりとしっかりと、久しぶりにパンと味噌汁。あちこちのテーブルから、中国語が聞こえてくる。食べれば出さねばならぬ、自室は使用中、故、隣室を借りると前者の臭いがこもっている、「あれ、水洗トイレの正しい使用法を知らないなあ?」尤も、水洗トイレが始まった頃「使用後水を流してください」と表示してあった

から無理からぬことだが、大きなのを落としたら、即流すのが正解なのだぞ〜だ。途中でも流せばよいのだぞ〜。もう一つ言えば、シャワレット中に手指で肛門を洗うなら完璧だ。

日本三大名園の一つ「岡山後樂園」へ向けて、7台が連なって出発、高速道路へ入るが、ETCと一般とで出るときに時間のずれが大きくできて、トップで案内する幹事は、ETCでさっさと行ってしまい、4番目の私宗片は軽トラでぶっ飛ばして何とか追いついたが、後ろの車はついて来れたかどうかは解らない、岡山の街中に差しかかると、今度は信号で何度も分断、ナビセットもしていないので、少ない案内板を見、信号待ちで隣の車にお聞きしながら何とか後樂園に到着、私はそれほど遅れてはいなかったが、ずっと遅れて到着した人も居た。きっと不安だったことだろう。

天気予報と全く異なり、朝から好天となり、日射しも強く、大汗をかきながら、昔別嬪のガイドさんの案内で、絶滅危惧種のタンチョウ鶴の飼育、水の流れを上手に活用した水路、岡山城の殿が愛飲した茶畑や井田（せいでん）は今も活用されていて、大賀はすやあやめやかきつばたの花々、芝生の緑、季節々々の樹花の美しさ、園にちりばめられた池田公の別邸群についての説明に耳を傾け、新知識を仕入れた。ここもご多聞に漏れず中国人の観光客が凄く多い。昔、日本人も海外買い物ツアーで爆買したものだが、今は中国人に変わった。

その後、今回の最後のイベント、昼食に「ピュアリティまきび」へ、園から10分ほどなのと、幹事さん口頭で「岡山駅の近く、イオンの隣」と言う。また7台が並んで出発、が、またも信号で、分断、分断を重ねて、初めての土地故やはり駅もイオンも分からない、またまた信号待ちで隣の車両に尋ねながら、少し遅れて到着した。このように、料金所を通る場合や街中の移動は、各運転者に、地図を配布しておいたら困らなかったはず。後学のために今回の失敗を繰り返さないようにしたいものだ。

タベも、今日の昼食もチョー豪華、普段はコントロールしているので、胃の腑が驚いたことだろう。

次回の2年後は、関西地区が担当すると話がまとまり、その間々には、「愛大のホームカミングデイ」の案内をすることにして、未来の夢ある話が最後に出来上がり、幹事の本名、渡邊両氏のおかげで、素敵なクラス会を終えることができ、「次回も参加できるように元気でいよう」と誓いあった。

（宗片記）



岡山後樂園にて（参加者13名（うち1名は子息））

# S35 年入学 北海道一周同期会・東京三大銅像改訂版

大門 和敬 (土木 S42 年卒)

S35 年入学 北海道一周同期会・東京三大銅像改訂版

大門 和敬 (S42 年土木卒)

2002 年札幌での同期会以来 14 年振りの北海道。7 月 17 日 江口氏のスバル・レヴォーグ 宇和島を  
 出発、小学時代同級の田村氏(旧城辺町)交代運転手も兼ねて同行。松山で大門、岡山にて木口氏(下関)と合流 一鼓賀へ(泊)。18 日 フェリー(船中泊)。19 日 苫小牧—札幌(泊)。20 日 早朝、中島公園散策—小樽—余市(ニッカウスキー工場で 20 分間の試飲)—小樽(泊)。21 日 一穂内(フェリー)—利尻島へ。レンタカーで島一周、ソフトクリーム、帆立の焼き貝は格別の味(土産:利尻昆布)。宿での夕食、海水に浸したウニは初めて。22 日 朝食の牛乳御代わりをしてしまった。(フェリー)—稚内—宗谷岬(日本最北端)—オホーツク海側(南下)—網走湖畔、宿の夕食時、木口氏小学時代の同級生同席。23 日 霧の知床峠を回り室蘭へ。宿の夕食、肉じゃが……ほくほく。24 日 函館へ。大門(大洲・蔵川はま川)は五稜郭へ。この設計は伊予大洲藩士 蘭学者、函館奉行支配 諸術調所教授であった武田斐三郎が考えた。国内初の西洋式城郭。2010 年復元された函館奉行所は、単に復元建物を見るだけではなく、歴史や復元過程のガイダンスがなされ、五稜郭全体の歴史と位置を知る場所とされている。このような復元建物の利用方法が、現在の史跡整備の代表例となっている。2006 年バトンタッチの新五稜郭タワーの高さは 60m(旧)から 106m となり五稜郭の全景が望めるようになった。塔体の断面は星形、展望台は五角形(土産:白い恋人、じゃがいも焼酎)。函館駅—温泉宿(泊)。25 日 函館港—(フェリー甲板にてエビセンをカモメに) 大間(青森)—秋田の都、仙台へ。おさが緑タレ。松山の街路の枝は、ぼうさり。樹木には“涼、大気汚染物質を除去する”吸毒、豪雨に対する吸水等の効果がある。年末のイルミネーションの為に玄坊主に似た市駅近くのイチヨウ並木。因に「市民の皆さんと共に 低炭素社会の実現を目指して チャレンジする 誇れる 環境モデル都市 まつやま」の垂れ幕が市庁舎正面に掛かっている。夕方は今治出身の宮城県・愛媛県人会長片上氏と一杯会。

キタキツネ車の前方横切る!

26 日 国道 6 号を福島第 1 原発近くまで南下。浪江、双葉町の信号はバリケードで封鎖の一本道。放射線量表示盤は 毎時 0.5 マイクロシーベルト。屋敷、田畑は雑草で荒れ正にゴースト田園。人影は、信号所の警備員。頭からスッポリの白い防護服姿のみ。除染廃棄物を詰めた黒いフレコンバッグ(1 袋 = 1m<sup>3</sup>)の山があちこちに。福島第 1 原発では、増え続ける「汚染水のごみ」及び放射性廃棄物問題も



深刻に。11月6日「補償金もらってあるのか」との夕顔のたかり—原宿避難いじのが発覚。2016年3月時点での避難者は、福島県全体で約10万人、愛媛県にも80名余り。伊方の再稼働でたまる一方の使用済核燃料は、後の世代に大きな負の遺産となる。福島第1原発を遠目に一路東京へ。アクアラインを初めて通る。JR袖ヶ浦駅で中村氏(千葉・我孫子)と合流。その夜は江口氏の妹さん(袖ヶ浦)にてご馳走になり泊めていただく。27日 一路(高速道)10日振りの愛媛へ。

昨年このたかりで「東京三大銅像と愛媛との縁・関わり」について掲載しましたが、西郷隆盛については、こじつけがヤン気にはなっていたところ、今年の1月、菊地さん(元大洲市教育委員会)より実際に関係があったと教えていただき、れっきとした史実が判明。

明治10年2月西南戦争が勃発。新政府の施政方針に対し不満を抱いていた大洲・吉田・宇和島の旧士族が集まり、鹿兒島の西郷軍を支援しようとして、鉄砲・実弾・火薬 3,000発を貯えた。ところがこの計画、その決起直前にもろくもついで、捕えられた43人が有罪となり、懲役5年から30日の開りに処せられ士族の身分を剥奪された。世に「西南騒擾事件」と呼ばれている。しかしこの事件に対する住民の反応は、心から国を憂える志士であり、その行動は義挙と賞する向きが多かった。松山徒刑所の獄吏の日記によれば、投獄された者は、いずれも人格高潔で識見も豊かであったため、中には先生と呼んで尊敬した者もあったと。

これで「西郷隆盛(上野公園)—大洲・吉田・宇和島、楠木正成(皇居前広場)—新居浜、大村益次郎(靖国神社)—宇和島」の東京三大銅像は全て「愛媛との縁・ゆかり」があることとなった。

### 参考文献

ハイブック 日本の城(山川出版社)、ワース・日本再発見③タワー(ミネルヴァ書房)、「自然の恵み」の伝え方—生物多様性メディア(清水弘文堂書房)、日本から我が消える(洋泉社)、正編 2016.4 世界 2016.1~11、大洲市誌(54頁12,22)。増補改訂大洲市誌(48,3,31)



## 愛媛大学 土木工学科 水工学研究室 近畿地区同窓会

### 「H28 年度 豊國先生を囲む会」 報告

平成 28 年 10 月 9 日（日）13：00～15：30 神戸三宮 東急 REI ホテルにて

清水 義博（土木 S52 年卒）

山本 英樹（土木 S53 年卒）

ようやく秋の到来を感じさせる季節となった 10 月 9 日に私たちの恩師である豊國永次先生をお招きし、昨年に引き続き「豊國先生を囲む会」を開催しました。

豊國先生は、昭和 43 年に愛媛大学に教授として着任され、昭和 62 年に神戸大学に赴任されるまでの 20 年間にわたり、水工学の研究に携わられ、大学に多大な功績を残されています。

先生が神戸に居住されたことを契機に、近畿在住の水工学研究室卒業生が中心となり、本会が平成元年に発足したところですが、その後、ご高齢ということもあり、土木海洋会近畿支部総会等でお出合いできる機会が減ったこともあり、ご自宅から会場への交通の利便性を考え、神戸の地にて、本会が昨年に復活したところです。

当日は、連休の谷間にもかかわらず、近畿在住の水工学研究室出身者をはじめ、日頃からお世話になっている近畿支部卒業生の総勢 9 名が集うとともに、愛媛大学教授を平成 27 年 3 月に退官された渡邊政広先生と愛媛大学土木海洋会会長友近榮治氏が、はるばる松山から駆けつけていただき、盛大に会を開催することができました。

豊國先生は、御年 87 歳になられ、来年にはめでたく「米寿」を迎えられますが、しっかり自己管理されておられ、いつまでも若々しく、聡明で凛とされたお姿は、学生時代当時の印象と全く変わってはいません。

先生ご自身の若さと聡明さを保つための秘訣は、ご自宅近くの公民館における週 4 日のジムとエアロビックスとヨガによる日々の鍛錬の賜物だそうです。

次は「白寿」を目指して日々精進したいというご自身の意気込みを聞き、出席者一同、大いに感銘を受けると同時に身の引き締まる思いでした。

懇談では、出席者全員による近況報告と懐かしい学生生活の思い出や先生との秘話を紹介しながら宴が進行していきましたが、その間、終始、会場が笑いに包まれ、和やかな雰囲気、ついつい時が経つのを忘れる程、大いに盛り上がっていました。

締めとして恒例の「愛媛大学学歌」を全員で斉唱し、限られた時間での会を終えましたが、先生を含め出席者全員にとっては、有意義な時を愉しんでいただけたものと思っています。



【豊國先生挨拶風景】



【渡邊先生近況報告風景】

最後に、恩師であり、憧れであり、心の支えである豊國先生や渡邊先生のご健康とご活躍を心から願いつつ、卒業生一同、次回での先生との再会を期待しながら散会しました。

なお、本会は、毎年定期的に「体育の日」前日の日曜日に開催することとしています。

来年、先生が「米寿」を迎えられることもあり、その節目として「豊國先生の米寿を祝う会」と称して、来る 10 月 8 日（日）に開催することとしています。

先生が教鞭を執られていた当時の水工学研究室卒業生をはじめ、ご縁のある卒業生の皆さんの奮ってのご参加をお願いします。

（連絡先）清水 義博 somu@denro.co.jp

山本 英樹 hid\_yamamoto@city.kakogawa.lg.jp



|      |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 【後列】 | 矢野 寛<br>(土木 55 卒)  | 山本 英樹<br>(土木 53 卒) | 清水 義博<br>(土木 52 卒) | 荒柴 敏夫<br>(土木 48 卒) | 牧野 吉博<br>(土木 56 卒) | 宮地 克好<br>(土木 56 卒) |
| 【前列】 | 友近 榮治<br>(土木 48 卒) | 松浦 良和<br>(土木 46 卒) | 渡邊 政広先生            | 豊國 永次先生            | 上阪 欣司<br>(土木 45 卒) | 大橋 健一<br>(土木 47 卒) |

## 平成 27 年度環境建設工学科卒業生 同窓会（中国・関西エリア）

田口 由梨絵（環建 H27 年卒）

○日時：平成 27 年 12 月 19 日

○参加者：安東 良，大石 直樹，岡村 俊哉，梶房 開，柴田 真帆，高見 恭平，  
田口 由梨絵，福嶋 克武，細見 茜，松尾 悠平（総勢 10 名）

私は、環境建設工学科の平成 27 年度卒業生です。

平成 27 年 12 月に中国・関西エリアにいる H27 年卒のメンバーを中心に同窓会を開催しました。当初は、関西圏にいる卒業生で開催しようと企画していましたが、せっかくの機会であるので、もう少し地域を広げ、より多くの人を集めようということになり、今回は岐阜、滋賀、大阪、兵庫、岡山、広島、島根から総勢 10 名の方々に参加して頂きました。参加して頂いた方々ありがとうございました。

今回の同窓会は、卒業から 1 年ぶりに再会する人や反対に、今回初めて会う人がおり、職種や業種がばらばらな新鮮な雰囲気の会となりました。やはり話のネタは、会社関係のことが多く、大変だったことや失敗してしまったこと等で話が途切れることなく、時間が過ぎていったように感じます。また、大学生活や研究室生活を懐かしく感じ、大学時代に戻りたいと嘆く人もいたような…気がします。本当にあっという間の時間でしたが、久しぶりに再会し、非常に充実した同窓会になったのではないかと思います。

これを機に、今回声をかけることが出来なかった人にも声をかけ、開催するたびに同窓会の規模を大きくしていきたいです。そして、大学を卒業して終わりではなく、卒業後もこのような再会の機会を設け、お互いに近況報告をしたり、愚痴を言い合ったりできる関係性を大切にしていきたいと感じます。

参加して頂いたみなさん、本当にありがとうございました。次回は中国地方で開催するつもりですので、平成 27 年度卒業生のみなさんぜひお集まりください。よろしくお願いします。



平成 28 年度 愛媛大学土木海洋会  
総 会 議 事 録

開催日時：平成 28 年 8 月 20 日（土）15:00-17:00

開催場所：愛媛大学校友会館サロン

出席者数：30 名（出席者名簿参照）

総会概要

出席正会員の中から議長として友近榮治会長が選任された。

議事録署名人として、河野徹中国支部支部長、清水義博近畿支部幹事が指名された。

議 題

1) 平成 27 年度事業報告について

門田幹事長より、総会資料-1 に基づき、平成 27 年度中に実施された諸事業について説明がなされ、これらが全会一致で承認された。

2) 平成 27 年度決算報告について

木下幹事より、総会資料-2 に基づき、平成 27 年度の決算報告がなされるとともに、この会計について大門監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

3) 平成 28 年度役員について

門田幹事長より、総会資料-3 に基づき、平成 28 年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成 28 年度の新任された役員は、以下のとおり。

○副会長：矢田部 龍一（教授）、山下 明（土 48）

○幹事長：藤森 祥文（環 12）

○幹 事：門田 章宏（土 4）、藤原 隆一（海 56）

○監 事：井内 國光（海 54）

○評議員：吉井 稔雄（教授）、山本 英樹（土 53）、三宅 毅（土 41）、渡辺 政広（土 46）

中村 孝幸（土 46）、片岡 公一（土 58）、内山 浩二（海 63）、池田 憲史（環 28）

岡本 哲徳（環 28）

また、幹事の中から会計幹事として、木下幹事が選任された。

4) 平成 28 年度事業計画について

藤森幹事長より、総会資料-4 に基づき、平成 28 年度事業計画（案）について説明がなされた。また、土木海洋会だよりはホームページに掲載し、冊子体を廃止することも併せて、本案が全会一致で承認された。

また、次のことが依頼、検討されることとなった。

- ・各支部所有のメーリングリストを本部へ送付することが各支部へ依頼された。

- ・各支部での行事案内等 HP への掲載やメール配信（本部から送信）を行うための資料等を本部へ送付することが各支部へ依頼された。
- ・教員派遣については、各支部からの要望を受けて本部で調整を行う。
- ・次年度の役員会、総会、交流会の時間変更が検討されることとなった。

#### 5) 平成 28 年度予算について

木下会計幹事より、総会資料－5 に基づき、平成 28 年度予算（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

友近会長より、参考資料－1 に基づき、コンビニ振込サービス等について説明がなされ、審議されたが、平成 28 年度は会員への会費納入の呼びかけを行うこととし、次年度以降に検討することとなった。なお、名簿については、前年度と同様に 5 年間以上会費未納会員に対しては送付しないことが確認された。

また、会費納入の呼びかけについては、会費の振込が複数（ネットバンキング、コンビニ ATM、各銀行 ATM 等）の方法で行えることをメール及び郵送で周知することも承認された。

#### 6) 会則の変更について

友近会長より、総会資料－6 に基づき、愛媛大学土木海洋会会則（案）及び会費についての内規の変更について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

#### 7) その他

各支部から、会費納入の向上に関する今後の取組や、メーリングリストの活用事例等の報告がなされた。

土木海洋会に長年にわたり貢献されてきた松木三郎（鉦山 28）、河野徹（土 42）、山田康晴（土 53）の 3 名に会長表彰が贈られた。

以 上

会 長

友近

榮治



中国支部支部長

河野

徹



近畿支部幹事

清水

義博



# 愛媛大学土木海洋会平成28年度役員会・総会出席者名簿

2016.8.20

|    | H28年度 役 職 | 氏 名   | 学科     | 卒年 | 備 考 |               |
|----|-----------|-------|--------|----|-----|---------------|
| 1  | 本 部       | 会 長   | 友近 榮治  | 土木 | S48 | 留 任           |
| 2  |           | 副会長   | 矢田部 龍一 | 環建 | -   | 現教員 H28新任     |
| 3  |           | 副会長   | 河野 徹   | 土木 | S42 | 中国支部支部長 留 任   |
| 4  |           | 副会長   | 土岐 睦弘  | 土木 | S50 | 関東支部支部長 留 任   |
| 5  |           | 副会長   | 山下 明   | 土木 | S48 | 近畿支部支部長 H28新任 |
| 6  |           | 副会長   | 黒川 重男  | 土木 | S55 | 愛媛支部支部長 留 任   |
| 7  |           | 幹事長   | 藤森 祥文  | 環建 | H12 | 現教員 H28新任     |
| 8  |           | 幹 事   | 大賀 水田生 | 土木 | S49 | 現教員 留 任       |
| 9  |           | 幹 事   | 畑田 佳男  | 海洋 | S55 | 現教員 留 任       |
| 10 |           | 幹 事   | 木下 尚樹  | 土木 | S63 | 現教員 留 任       |
| 11 |           | 幹 事   | 門田 章宏  | 土木 | H4  | 現教員 H28新任     |
| 12 |           | 幹 事   | 武名 裕史  | 海洋 | S59 | 関東支部幹事長 留 任   |
| 13 |           | 幹 事   | 國富 将嗣  | 土海 | H8  | 中国支部幹事長 留 任   |
| 14 |           | 幹 事   | 藤田 康司  | 土木 | H4  | 愛媛支部幹事長 留 任   |
| 15 |           | 監 事   | 井内 國光  | 海洋 | S54 | 現教員 H28新任     |
| 16 |           | 監 事   | 大門 和敬  | 土木 | S42 | 留 任           |
| 17 |           | 評議員   | 吉井 稔雄  | 環建 | -   | 現教員 H28新任     |
| 18 |           | 評議員   | 渡辺 政広  | 土木 | S46 | 元教員 H28新任     |
| 19 |           | 評議員   | 山田 康晴  | 土木 | S53 | 留 任           |
| 20 |           | 評議員   | 中尾 均   | 土木 | S54 | 留 任           |
| 21 | 近畿支部      | 幹 事   | 清水 義博  | 土木 | S52 | 留 任           |
| 22 | 愛媛支部      | 副支部長  | 平松 浩彰  | 土木 | S58 | 留 任           |
| 23 |           | 幹事長補佐 | 栗原 弘和  | 土木 | H2  | 留 任           |
| 24 |           | 幹事長補佐 | 中村 大輝  | 土海 | H10 | 留 任           |
| 25 |           | 幹事長補佐 | 木村 将伸  | 環建 | H12 | H28新任         |
| 26 |           | 正会員   | 渡邊 政富  | 土木 | H2  |               |
| 27 |           | 正会員   | 猪熊 良介  | 土木 | H3  | (香川県)         |
| 28 |           | 正会員   | 岡田 淳平  | 土木 | H3  |               |
| 29 |           | 正会員   | 塩田 耕司  | 土海 | H6  |               |
| 30 |           | 正会員   | 井上 博喜  | 土海 | H10 |               |



会長表彰授与式（河野徹（土木 S42 卒））



会長表彰授与式（山田康晴（土木 S53 卒））



会長表彰記念撮影



## 本部だより

### 1. 会費についての内規

平成 12 年より 70 歳以上の会員の会費は免除することにしております。また 65 歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

会費についての内規は、平成 28 年度総会で一部変更されました。

#### 会費についての内規

1. 会費は、年額 3,000 円とする。ただし、70 歳以上の会員の会費は免除する。
2. 65 歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、65 歳以上の会員に対しては 10,000 円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

### 2. 会合への助成金制度

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思います。下記の細則 2 の提出物を添えてお申し込みください。事前のご相談もお受けいたします。

〈同期会・研究室同窓会・職場班会・地区同窓会などに対する助成金制度〉

助成金額：出席者会員 1 名当り 1,000 円を上限とする。ただし、会員 5 名以上の会合で、助成最高額は 50,000 円とする。

#### 上記助成金制度の細則

##### 細則 1. 助成対象

出席者の全員または一部が会員である会合に対し助成する。

##### 細則 2. 本部事務局への提出物

1. 案内状 1 部（土木海洋会への会費納入催促の文をなるべく記載のこと）
2. 最終出席者名簿 1 部（氏名、卒業学科・年、その他（勤務先、住所など）
3. 集合写真 1 枚（日付入り）
4. 住所変更の報告
5. 土木海洋会だよりへの投稿原稿

##### 細則 3. 助成回数

同一組織による会合への助成は、年度内において 1 回とする。

上記の助成は、平成 9 年度より実施する。

### 3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧ください。支部行事、会合の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

土木海洋会ホームページ [http://www.hydro.cce.ehime-u.ac.jp/doboku\\_kaiyou\\_hp](http://www.hydro.cce.ehime-u.ac.jp/doboku_kaiyou_hp)

### 4. 土木海洋会だよりへの投稿のお願い

毎年12月に発行しております「土木海洋会だより」への掲載記事を募集しております。

個人・グループの近況、活動報告、技術記事などを寄稿ください。掲載ご希望の方は本部(dokai@cce.ehime-u.ac.jp)までご連絡ください。

#### ~~~~~ 編集後記 ~~~~~

今年度から土木海洋会だよりは印刷版を廃止して、ホームページに掲載する電子版のみの発行になりました。経費削減のためですので、ご了承くださいますようお願いいたします。

編集作業では、皆様からお送りいただいた原稿をできる限り忠実に再現したつもりですが、不備などありましたらご連絡いただければ幸いです。

また、編集作業を通して、会員みなさまが各地で行っている様々な活動を知る良い機会になりました。

同期や研究室の集まりなど、同窓会は日本全国で行われていると思われます。その際には是非「会合への助成金制度」を利用いただき、その様子を土木海洋会だよりへ寄稿していただければ、土木海洋会も更に盛り上がっていくのではないかと思います。

今後とも土木海洋会の活動につきまして、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

(藤森 環建 H12 年卒)

## 愛媛大学土木海洋会だより 第 22 号

---

発行日 平成 28 年 12 月 9 日

発行者 愛媛大学土木海洋会

〒790-8577 松山市文京町 3 番

愛媛大学工学部環境建設工学科内

電 話 089-927-9870

F A X 089-927-9870

E メール dokai@cee.ehime-u.ac.jp

郵便振替 加入者名：愛媛大学土木海洋会

口座番号：01640-6-37779

銀行口座 加入者名：愛媛大学土木海洋会

伊予銀行城北支店（支店番号 150）

普通口座 150-1-1231698

ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店

当座 0037779

---

土木海洋会

検 索



土木海洋会ホームページ

[http://www.hydro.cee.ehime-u.ac.jp/doboku\\_kaiyou\\_hp](http://www.hydro.cee.ehime-u.ac.jp/doboku_kaiyou_hp)

メールアドレス

[dokai@cee.ehime-u.ac.jp](mailto:dokai@cee.ehime-u.ac.jp)

愛媛大学工学部環境建設工学科ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/>